

編集委員 吉野泰造

この度、新編集委員となりましたNICTの吉野です。

我が国の宇宙開発もおよそ半世紀を経て、その応用分野は時代の要請、技術革新により大きく変化してきました。一方、この業界で、よく「宇宙は狭い」と言われるように、以前から知り合いではあるものの衛星通信とは少々間口の異なるところで仕事をしていた人同士が、結局は、新しい宇宙関連のプロジェクトで共に作業をするという経験をされているケースが少なくないようです。これは、次の時代を切り開くために必要な高い技術ポテンシャルが人と共に最適な形で再配置された結果と言えます。何事も、人が原動力ですので、宇宙開発の関係者は周辺技術の動向を始めとする積極的な情報交換により、常に時の風を感じ、オールJAPANでより良い方向に進んでいけたらと思います。



私は、CS,BSの衛星通信技術の開発が本格化した当時(1976年)、電波研究所鹿島支所(現・NICT鹿島宇宙技術センター)に配属され、日々進められる地上局のアンテナと施設の大規模な整備を目の当たりにし、大いに刺激を受けました。しかし、配属された研究室では、衛星電波ではなく天体の電波を受信してプレート運動や地殻変動の計測等を行うVLBIシステムの研究開発を行いました。これも宇宙技術と宇宙利用のひとつです。また、測地、測位の基幹技術としてのVLBIに対し、一般ユーザでも容易に利用できるGPS測位技術が台頭してきましたが、長くVLBI研究で位置計測に関わったこともあり、その後、三菱電機において、日本版のGPSとも言われる準天頂衛星システムの開発(特に、測位補強システムの開発)にも従事しました。準天頂衛星の初号機が無事軌道にのった後、現在は、再び、情報通信研究機構にて勤務しています。このように、衛星通信一筋ではありませんが、広い意味で、長く宇宙技術の開発に関わってきました。

SJRの存在は以前から認識しておりWebで公開されたものを興味深く拝読しておりました。SJRは宇宙の関係者の交流にとっても良い場を提供していると思います。今度は、編集サイドでSJRの発展のお手伝い出来ればと思っています。どうか、ご協力をよろしく願いいたします。■

(情報通信研究機構 電磁波計測研究所 主任研究員)